

# 不登校児童生徒と保護者への 臨床心理学的支援活動事業



特定非営利活動法人  
九州大学こころとそだちの相談室  
金子 光代

# 九州大学こころとそだちの相談室とは (通称こだち)

- 設立：平成18年11月
- 設立メンバー：九州大学出身の臨床心理士、九州大学教員等
- 事業内容：
  - ・ カウンセリングルーム「こだち」
  - ・ 家庭学習支援事業
  - ・ 心の電話・福岡（福岡県・福岡市補助事業）
  - ・ フリースペース ここりーと
  - ・ 不登校親の会 ここあんの会
  - ・ 一般市民向けの心理学の講演会



# 1 申請内容と動機

## 2 事業実施概要と成果

## 3 課題と今後の展開

# こだちの不登校児童生徒支援事業

本人・保護者・周囲の関係者への支援が必要

一般住民への啓発・周囲が協力者になれるしかけ

孤立している家族が支援につながりやすくなること



①思春期居場所活動 フリースペース「ここりーと」

本人

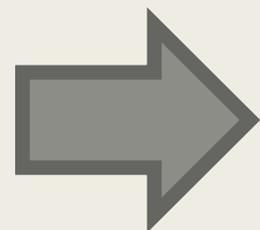
②不登校児童生徒の親の会「ここあんの会」

保護者

③新規：思春期理解のための講演会

市民への啓発

潜在的ニーズ



# 課題 1 : 周知不足

補助金活用①講演会の開催費用

補助金活用②広報範囲の拡大

補助金活用③多様な広報手段

# 課題 2 : 支援の客観的な評価に乏しい

補助金活用④充実した事例検討会の実施

補助金活用⑤調査にかかる費用・書籍購入費用

1 申請内容と動機

2 事業実施概要と成果

3 課題と今後の展開

# フリースペース「こころーと」の概要と成果

- 対象：10歳から18歳の男女 4名  
(引きこもりがち、不登校及び不登校傾向、発達障害などによる学校不適應)
- 日時：毎週金曜13：00～16：00（計31回）
- 支援内容：
  - ①参加者同士で話をしたり、遊んだり、ゆっくり過ごすことのできる場を提供。
  - ②安心して自分らしく過ごせる居場所を家庭外に持つことができることを目指し、子どもの関心を広げることを狙う。
  - ③スタッフは臨床心理士と心理学を学ぶ大学院生。

※新たにスタッフの行動評定〔内発的動機付け尺度（IMI:最上ら,2009）を参考に活動での行動を評定〕、専門家を招いた事例検討会を実施。



# フリースペース「こころーと」の概要と成果

- 継続参加の対象者1名の変化：
  - ・ 前年度よりも登校へ挑戦する機会が増加。
  - ・ 活動内で現実場面の葛藤の話ができるように変化。
  - ・ 内発的動機付け尺度(IMI:最上ら,2009)の各領域(興味・楽しみ、選択、価値・有用性等)を評定したところ、興味・楽しみが上昇し、対象者の関心が広がった。
- 専門家を招き事例検討会を実施したことで対象者への理解が深まり、支援の質が向上。
- 見学者や登録者はいるものの、不安が高く人と接することが難しい等の理由から継続来室は難しい者が多く、継続参加人数が少ないことが課題。

# 不登校児童生徒の親の会「ここあんの会」の概要と成果

- 対象者：不登校及び不登校傾向の児童生徒の保護者7名
- 日時：毎月第3金曜日13:30-15:00
- 内容：不登校児童生徒の保護者が自身の悩みや体験を振り返り、子どもの理解と対応につなげるため、保護者同士の情緒的交流や情報交換が可能な不登校児童生徒の親の会を行った。
- 独自性：臨床心理士によるミニ講話と交流会のセット。

毎月1回90分。安心感を重視した進行。

※新たに参加者対象のアンケート調査を実施。

- ①会の満足度、その理由
- ②興味のあるテーマの選択、記載
- ③PAT（子育て態度尺度）（平石,2008）

# 不登校児童生徒の親の会「ここあんの会」の概要と成果

■前半は臨床心理士による講話を行い、後半は保護者同士の情緒的交流や情報交換を行った。

テーマ例：「身体を通して心を考える」「敏感さとの付き合い方」

■参加者対象のアンケート調査では満足度の平均が前半4.93、後半5.00と高かった（いずれも5段階評価）。

■PAT（子育て態度尺度）（平石,2008）は実施日と参加人数の関係で全員には実施できず比較できなかったが、記入して話し合うことが自己理解につながったとの感想があった。

■参加者からは孤立感の軽減や具体的な悩みの共有によって対応策を得たなどの感想が見られた。

# 思春期理解の講演会の概要と成果

- 対象：一般市民 88名（不登校児童生徒の保護者や関係者含む）
- 時期：2019年11月17日 14:00-16:00
- 場所：九州大学西新プラザ大会議室
- 講師：大場信恵先生（九州大学教授・臨床心理士）
- 内容：



- ①一般市民の不登校に対する理解や思春期の理解を深める講演会「思春期のふしぎ-反抗する子・行きしづる子・話さない子-」を開催。
- ②親の相互交流の場への参加に抵抗のある保護者が支援機関とつながりを持つことをねらう。
- ③事前に質問を募り、当日に講師が共通性の高いものに答える形をとり、参加者がコミットできる仕掛けを用いる。

# 思春期理解の講演会の概要と成果

- 福岡市教育委員会の後援をいただき、小中学生の保護者に広報。一般市民の疑問に答える形で、不登校に対する理解や思春期の理解を深めた。
- アンケートの感想：具体例を挙げてもらいわかりやすかったといった理解しやすさに関する感想や、教えていただいたキーワードを大事に子どもと向き合っていきたいですといった前向きな気持ちの変化があったことがうかがえる感想もあった。
- 大変満足した、満足したと答えた者の割合が93%  
(満足度平均：講義4.81、質疑応答5.53。いずれも5段階評価)
- 親の相互交流の場への参加に抵抗のある保護者の参加もねらったところ、カウンセリングや親の会につながる方が数名おられた。
- RKB毎日放送のニュースでも取り上げていただいた。

1 申請内容と動機

2 事業実施概要と成果

3 課題と今後の展開

# 課題：潜在的ニーズの開拓とつながりの拡大

- ①～③の事業は今後も継続。
- 講演会の効果が大変大きかったため、今後もニーズにあったテーマを設定して対象者の疑問に答えられる内容の講演会を企画し、地域で不登校児童生徒や保護者をサポートできる基盤育成を図る。
- 必要とする家庭に支援が届くよう事業の広報活動を進め、活動参加者人数の増加を図る。
- 気持ちはあっても来室が難しい対象者に対しては、オンラインでの支援を含めた多角的、段階的に関わり、参加しやすい工夫を行う。



ご支援いただいたおかげで

個別の支援を必要とするより多くの人に

高度な専門性に支えられた

継続的支援を提供することができました

ご支援をいただきありがとうございました。